

ひげ博士のホットレポート－最新免疫学講座(号外) 特別講義 第一回 (2020年5月7日)

皆さん、ひげ博士じゃ。”目に青葉 山ホトギス 初経 (山口素堂)”の気持ち良い季節になったのう。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)で世間が恐れ慄いておるが、もちろん、”自分の身は自分(の免疫)で守る”が基本じゃ。日頃の免疫力強化の成果を示す時じゃ。



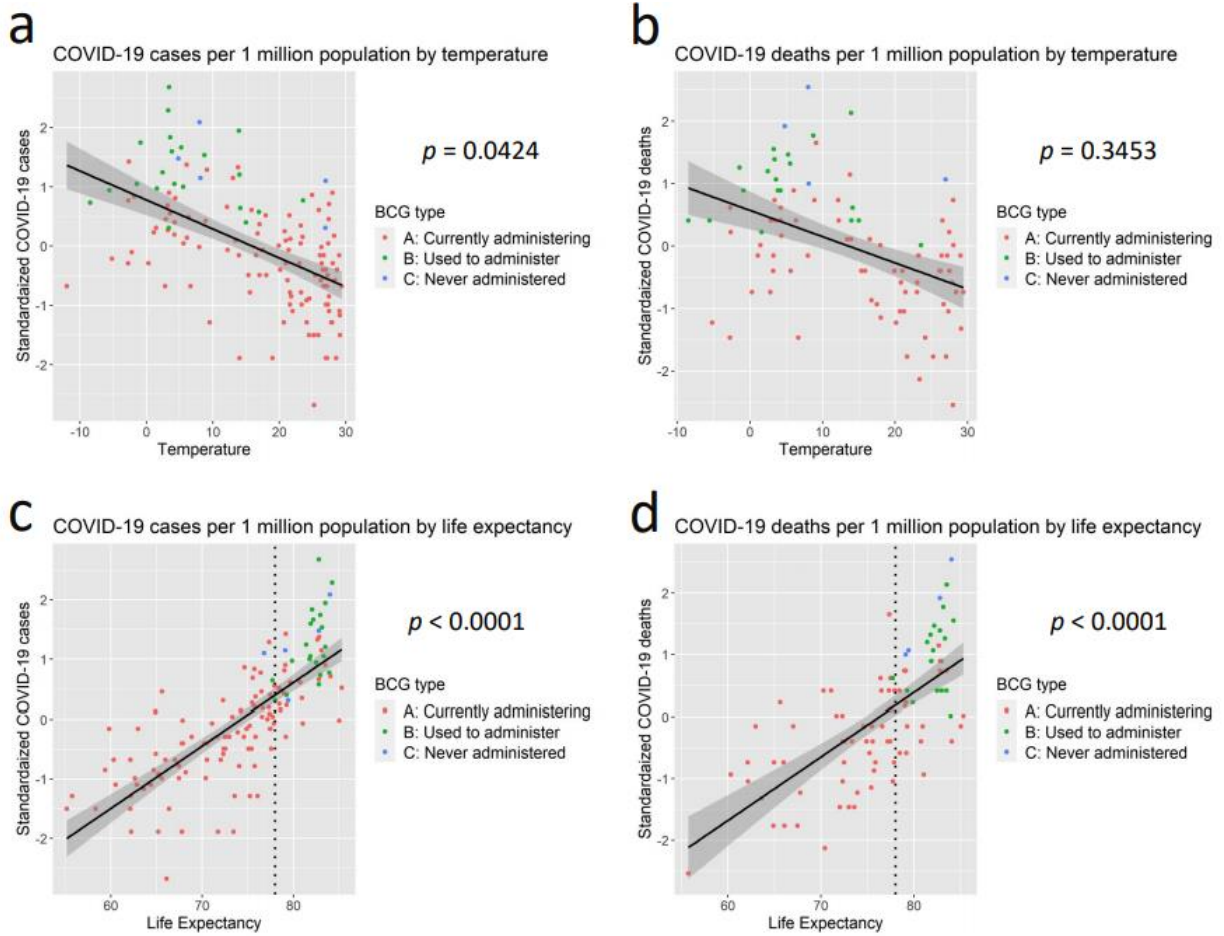
そう言えば、今話題の BCG ワクチン接種している国では新型コロナウイルス感染症にかかりにくく、死亡率も低いことが話題になっておるのう。BCG ワクチンは自然免疫をトレーニングすることが知られておるのじゃ。LPS もその力があるのじゃ。なにない、もっと詳しく聞きたい？それでは、特別講義をするとしようか。長い話なので、4回に分けて話すとうのう。

第一回講義のタイトルは『BCG ワクチン接種と新型コロナウイルスとの関係性』じゃ。

BCG ワクチンを接種している国とそうでない国とで、COVID-19 の死者数が異なることがインターネットやニュースで話題になっているのはご存知のことと思う。大変に面白いことだと思っておったが、一方で否定的な意見もあり、根拠がはっきりしていなかったのじゃ。しかし、つい最近、藤田保健衛生大学の宮川教授が『medRxiv』(査読前の論文を掲示するサイト)に論文を発表していらっしやる。この論文は 2020 年 3 月 20 日時点のデータを解析したということじゃ。論文の中身を見てみよう。

まず下図を紹介しよう。a, b, c, d の 4 つの図の点のそれぞれ一つの点は一つの国を示しておる。この図から読み取れるのは、COVID-19 は気温とはほとんど関係ない一方で、平均寿命が長い国ほど感染率も死亡率も高くなることが強く示されておる。よく見ると、各図には A: 赤い点はいつも BCG ワクチンを接種している国、B: 緑の点は BCG ワクチンを接種していた経験のある国、C: 灰色の点は BCG ワクチン未接種国、で示されているのじゃが、見えるかのう。何、小さくて見にくい？ そういえば、実はわしも老眼で見えない・・・

コホン、それでは、次の講義で、もう少し詳しく説明するとうのう。では、次回お目にかかるまで、皆さんごきげんよう。



- (a): 100 万人あたりの COVID-19 症例数と 2-3 月の平均気温との相関(弱い逆相関)
- (b): 100 万人あたりの COVID-19 死亡者数と 2-3 月の平均気温との相関(相関なし)
- (c): 100 万人あたりの COVID-19 症例数と平均余命(強い相関有り)
- (d): 100 万人あたりの COVID-19 死亡者数と平均余命(強い相関有り)